

日本名作映画鑑賞会

期日 平成24年

2月4日(土)5日(日)

会場

天神山文化プラザ

文化庁と東京国立近代美術館センターでは、多くの方に優れた日本映画を鑑賞していただくことを目的に平成元年度から「優秀映画鑑賞推進事業」を実施しており、映画史を代表する作品や、好評を博した選りすぐりの貴重な作品を各地で巡回上映しています。

天神山文化プラザでは、平成18年度より「日本名作映画鑑賞会」として、毎年開催しており、これまで多くの方にご来場いただきました。

今年度は、軽やかなリズムと華やかな色彩のせて、歌と笑いと夢にあふれた音楽・歌謡映画の決定版、4作品をお届けいたします。



1961年 大学の若大将



1955年 ジャンケン娘

料金 (税込)

1作品 500円

1日通し券 1000円



①「ジャンケン娘」 10:00～

(1955年 東宝・92分 カラー)

原作：中野実 脚本：八田尚之 監督：杉江敏男
出演：美空ひばり 江利チエミ 雪村いづみ 浪花千栄子 沢村貞子ほか

「平凡」連載の小説をもとに、当時人気沸騰のひばり・チエミ・いづみの三人娘が主演した明朗な娯楽作品。物語は、東京の高校生であるひばりとチエミが京都を訪れ、仲良しになった舞妓のいづみから恋人探しを頼まれるというもので、メロドラマの要素も織り交ぜながら、東宝の中堅である杉江敏男監督がそつなく演出した（映画ロケーションのシーンでは監督も顔を見せている）。この作品では赤・青・黄の三色を効果的に散りばめた色彩の工夫が特徴的で、三人が劇中劇の形でそれぞれ歌や踊りを披露するシーンでも、衣装や舞台装置にこうした色彩効果が活かされている。



②「エノケンの頑張り戦術」 12:20～

(1939年 東宝・74分 白黒)

脚本：小国英雄 監督：中川信夫
出演：榎本健一 如月寛多 柳田貞一 ほか

浅草オペラ出身で、「カジフォーリー」の人気者として世に知られ、日本初の本格的レビュー映画『エノケンの青春酔虎伝』（1934）以来、戦後にまたがって数々の映画に主演した不世出の喜劇役者、榎本健一。この作品は、エノケンが最も脂の乗っていた時期のもので、防弾チョッキ製造会社で犬猿の仲である二人の社員が、何事にかけても張り合う姿を抱腹絶倒の喜劇に仕立てたもの。ライバル社員に榎本の実家のせんべい卸屋で使用人だったという経歴を持つ如月寛多、会社の課長に浅草オペラ時代の師匠だった柳田貞一という馴染み中の馴染みを記している。



③「大学の若大将」 13:50～

(1961年 東宝・82分 カラー)

脚本：笠原良三 田波靖男 監督：杉江敏男
出演：加山雄三 星由里子 田中邦衛 上原謙 ほか

俳優加山雄三の代名詞とも言える東宝「若大将シリーズ」の第1作目で、名優上原謙の長男という「芸能界のサラブレッド」としてデビューした加山は、明朗快活、スポーツ万能、歌や楽器もこなすというキャラクターで売り出された。流行のスポーツや音楽、若者風俗を取り入れたこのシリーズは彼を早速スターダムに押し上げた。一方、そんな若大将にライバル意識を持ち、恋路にいつも横槍を入れる「青大将」シリーズも裏の人気者である。いつも若大将にみじめな敗北を喫するパターンではあるが、「青大将」を演じた田中邦衛に世の注目が集まるきっかけとなった。



④「君も出世できる」 15:30～

(1964年 東宝・100分 カラー)

原作：笠原良三 井手俊郎 監督：須川栄三
出演：フランキー堺 高島忠夫 雪村いづみ 中尾ミエ 浜美枝 ほか

東京オリンピックの時代を背景に、外国の観光団を自社に引き寄せようとする観光会社の争いをユーモラスに描いた本格的なミュージカル・コメディ映画。監督の須川栄三は、出世の希望に燃えるフランキー堺といつも優柔不断な高島忠夫というコンビを軸に据え、さらに益田喜順といった芸達者をからませながら、厚みのある物語世界を生み出した。ダンスの振付、音楽の構成、舞台装置、編集などあらゆる面でハリウッドのミュージカル・コメディを研究した様が窺えるが、作曲面では登場人物のキャラクターごとに曲調を使い分けるなど、細かい工夫が随所になされている。

主催：岡山県天神山文化プラザ優秀映画推進事業実行委員会・文化庁・東京国立近代美術館フィルムセンター
協力：株式会社オーエムシー・岡山県興行生活衛生同業組合

◆チケット取扱い・お問合わせ：岡山県天神山文化プラザ

岡山市北区天神町8-54 086-226-5005

※ご来場の際は、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

